

育児と開業と ワークライフバランスについて

西田真紀子

赤羽橋皮膚科クリニック院長

5年前に娘を出産し、それをきっかけにクリニック開業を決断しました。開業前は大学病院に勤務しており、産休直前まで外来・病棟はもちろん、オペ室に入って手術したり当直もしたりと、わりとハードに仕事をこなしているつもりでございました。ですが、高齢出産だったためか、元気いっぱいな娘のキャラクターもあるのか、私にとっては育児のほうがよほど辛くて、これまで勤めたどの病院での勤務よりたいへんだと思いました（待ちに待った妊娠・出産でしたし、とても幸せでした。念のため）。その結果、大学勤務を続けるのはむずかしいかもしれないという気持ちが生じ、母が内科の開業医で医療法人の継承の話もあり、お世話になった教授の退官の時期も重なり、開業することとなった次第です。

私の夫は医師ではなく、以前は同じ大学で研究職をしていましたが、辞めてクリニックの事務的な仕事をしており、娘の送り迎えなどもしてくれています。そのため、私は外来に集中できるので、かなり恵まれた環境で仕事ができていると思います。娘はクリニックのすぐそばの区立幼稚園に通っています。幼稚園なので延長保育を使っても17時には迎えに行く必要がありますが夫が対応してくれますし、幼稚園の行事なども夫が基本対応し、主要な行事だけ私も参加しています。

私の家族の場合、夫婦ともに実家が遠く、必然的に私と夫だけで回せるシステムを確立するほかに、娘と私たち夫婦にとってベストな環境をと考えた結果、いまの形となっています。客観的にみても私にとって働きやすいシステムと思いますし、子育て中で開業を考えている後輩には「理想的」といわれたりします。

とはいえ、それはそれで辛いことも多いのです。クリニックに夫が常にいるので何かと気を遣いますし、夕方には娘がクリニックで私の仕事が終わるのを待っており、外来終了



と同時に娘との時間が始まります。家に帰っても、娘と話しているそばから夫から仕事の話がされ、2人ともよくしゃべるのでまったく気が休まりませんし、自分の仕事どころではありません。本稿も2人が寝静まった深夜に書いています。

でも、なんだかんだ思うのは、いくら考え直しても私たちにとってはいまのシステムがやはりベストで、もしやり直せたとしてもまた同じ道を選ぶだろうということです。ワークライフバランスといっても、バランスをとろうとしてとるものではなく、必然的にそのバランスでやるしかないという感じで、それでよいのかなと思います。

先日クリニックの皆で何気なく話しているときに、あるスタッフが「どうして（世の中）こんなに働きにくいのでしょうか？」といいました。みんな働きにくいよね、そうだよ、でもそもそも働くってたいへんであたり前でしょう、と思ったのですが、院長としてそれではよくないかと思い直し、なんとなく「うちは働きやすい環境を目指したいと思います」といってしまいました。実現できないマニフェストみたいな感じで、予定も答えもないのですが、私の今後のテーマの1つにしたいと思います。